

## 平成 26 年度国際居住年記念賞等受賞者について

国際居住年記念賞は、開発途上国における居住環境問題の改善に貢献された団体に対し、1988 年の第一回授賞以来、主として海外の団体を中心として授賞してまいりましたが、平成 24 年度から、開発途上国に出向き、居住環境問題の改善に向けて地域住民と連携しながら草の根レベルでの国際協力活動に尽力する国内の NGO 等の団体を対象に、授与することといたしました。

居住環境の更なる向上と国際協力活動の推進・発展に資することを目的とした平成 26 年度「国際居住年記念賞」の授与は、今年度応募のあった 9 団体の中から、国際居住年記念事業運営委員会（委員長：小林重敬氏横浜国立大学名誉教授）において、下記の団体が選考され、授与することを決定いたしました。なお、授与式は第 67 回通常総会(平成 27 年 6 月 24 日)の開催に先立ち、行いました。

### ◎国際居住年記念賞

特定非営利活動法人 緑のサヘル

<http://sahelgreen.org/>

受賞者の活動概要は以下のとおりです。

特定非営利活動法人 緑のサヘル

代表理事 岡本 敏樹

所在地 東京都千代田区神田紺屋町 1 6 NAS ビル 3 0 1 号

緑のサヘルは、砂漠の脅威にさらされているアフリカ・サヘル地域に住む人々を支援することを目的に 1991 年に有志によって設立され、以来、食糧や生活用水の不足の解消、衛生や現金収入の向上による生活改善、土壌や植生の回復を図る環境の整備等を中心に、ブルキナファソ、チャド共和国、タンザニア連合共和国の 3 ヶ国を対象に活動し、2014 年(平成 26 年)に NPO に移行しました。

アフリカ・サヘル地域における砂漠化は、森林伐採や家畜の過剰放牧等現地の生活自体が大きな原因となっているという見地から、根本的にそこに暮らす人々の意識や生活を安定させ、地域住民が自らの手で環境を守り続けることが出来る状況を作り出すための支援を 20 余年にわたり継続しています。「木を植える」ことよりも「木を植えることが出来る生活づくり」を基本とし、誤った既成概念や誤解を取り除けるよう図るとともににより住民に溶け込みやすい状況づくりに努め、下記の生活基盤、環境への取り組みを行っています。

- ①生活用水の確保のため、ポンプ付き深井戸の設置。貯水タンクを設置し、手洗いやうがいの励行を促している。
- ②労力の軽減に向けた取組みとして、改良カマドの配布・設置し、薪の使用料の抑制や女性の労働負担の軽減を図っている。

- ③近代養蜂の導入による蜂蜜の採取・販売により女性を含む一般住民の収入向上支援、家畜の育成と販売による収入向上と女性の活動の活性化に向けた支援を行っている。
- ④緑化支援事業として、熱風や砂埃を防ぐための学校庭への植林、生徒と保護者による植穴掘りと苗木の植栽、育苗の後管理のための指導を行っている。
- ⑤荒廃地の回復に向けた事業として、降雨時に生じる水と表土の流出を防ぐ石堤の設置、堆肥の投入を行っている。
- ⑥湖岸の植林事業として土砂の流入や氾濫によって崩落が進む湖岸への植林、これら植栽地の計画的な間引きや枝打ち等の管理、薪の伐り出しと販売による収入向上を図っている。

これらの活動は、企画・計画作りの段階から住民及び現地NGOと共に行っており、平行して、取り組みが持続的なものにするため住民組織の強化等を図り、住民自身による活動の選択と継続が可能になることを目指しています。

また、今後の活動を奨励するものとして次の団体を平成 26 年度国際居住年奨励賞受賞者として決定しました。

#### ◎国際居住年奨励賞

NGO 新潟アピの会 <http://niigataapi.web.fc2.com/>

受賞者の活動概要は以下のとおりです。

NGO 新潟アピの会

代表 倉田 洋子

所在地 新潟市中央区学校町通 2 番町 5 3 0 8 番

NGO 新潟アピの会は、1996 年にスリランカの低所得者層の居住する地域における幼児、女性達や難民居住地に住む国内の移住民を支援することを目的として設立されました。アピとはスリランカの言葉で「私たち」を意味します。

スリランカの農村部において、井戸・貯水槽の建設、農業指導、農機具やミシンの支給、小規模貸付事業等による村おこしの支援、そして幼稚園の建設、巡回医療、孤児院の運営に対する支援など教育環境の整備等下記の活動に取り組んでいます。

#### ①井戸等給水施設の建設

地域の実情にあったものとするため、地域住民との十分な話し合いのもと建設を進め、メンテナンスや管理は地域住民の手によって使い続けられている。

#### ②農村コミュニティの土台づくり

住民が生きる意欲を持つために、農業指導やミシン等の支給による職業指導、正規の銀行からの融資が受けられない住民向けの小規模貸付事業を行っている。小規模貸付事業の融資を受けて成功した結果、貯蓄高が増加し、村立銀行が設立され、パンやスパイス工場が建設されたことによって新たな雇用が生まれている。

### ③教育環境整備事業

幼い子を持つ母親が安心して農業に従事できるよう、幼稚園建設事業に力を入れ、幼稚園は必ず井戸と菜園をセットとして建設している。また風雨をしのぐことの出来ない家庭に対し、住居を提供している。

### ④予防巡回医療事業

住民の健康意識の向上のため、口腔保健の実施と意識の向上を促すことに取り組んでいる。

### ⑤孤児院運営支援事業

スリランカでは内戦終結後、孤児院が相次いで閉鎖されており、また、開発によって消滅しつつある密林から行き場を無くした野生動物によって、宿舎や農園等が破壊されている。このため、これらの施設の修復や野生動物の侵入を防ぐフェンスを設置などの取り組みを行うこととしている。

これらの活動に加えて、スリランカとの文化交流、学生中心のスタディツアーを行うなど国際協力への関心を高める取り組みを行っています。

授与式は当協会役員列席の中、鈴木会長から国際居住年記念賞受賞者「緑のサヘル」事務局長の菅川拓也氏、国際居住年奨励賞受賞者「NGO 新潟アピの会」代表の倉田洋子氏にそれぞれ賞状と副賞が授与されました。



鈴木会長より賞状を授与される  
「国際居住年記念賞」受賞者、  
「緑のサヘル」事務局長 菅川 拓也氏



鈴木会長より賞状を授与される  
「国際居住年奨励賞」受賞者、  
「NGO新潟アピの会」代表 倉田 洋子氏（手前）と  
顧問 倉田 文一氏



左より国際居住年記念賞受賞者「緑のサヘル」事務局長 菅川 拓也氏、  
鈴木 伸弥会長、国際居住年奨励賞受賞者「NGO新潟アピの会」代表 倉田 洋子氏、  
同 顧問 倉田 文一氏